全私学新聞
平成 24 年 4 月 23 日　掲載

電子黒板導入例／東京都市大学付属小学校

黒板に貼るシートタイプ 子どもにも自由に

「UPIC」プラス

東京都市大学付属小学校（重永睦夫校長）は今年四月から、プラス株式会社（東京・港区）の提供するシートタイプの電子黒板UPIC（ユーピック）とプロジェクターおよび書画カメラを全教室に設置、電子黒板を使った授業が本格的に始まった。

英語の授業では数年前から電子黒板を使っていて、教育効果が高いことは分かっていた。導入校の例も見知っていた重永校長は、「先駆的な授業を行うにはICTが不可欠。電子黒板を早く全教室に導入したかった」と言う。しかし高価なため、昨年度は電子黒板一台分の予算しかとれないでいた。そこへプラスから、リーズナブルで、従来の黒板に貼るだけというシートタイプの電子黒板・UPICの提案があったのを機に、一年から六年まで十二の全教室へUPICとプロジェクターおよび書画カメラを導入することになった。

電子黒板を活用した青木先生の算数の授業

導入前研修は、昨年の夏から始まった。しかし、電子黒板にとまどいを見せる教員もみられた。そこで研修を担当した青木裕樹教諭は、いきなりパソコンで電子黒板を使うのではなく、まずは使い慣れた書画カメラで電子黒板を使うという方法を取り入れた。「使ってもらうには、先生方の抵抗感をなくすことが大事だから」（青木教諭）。今では全教員が慣れ、パソコンでの教材作成に取りかかっている。

計算式を書いてみせる児童

新入生を迎えたばかりの四月十二日、青木教諭の授業を取材した。六年生の算数で、単元は立方体表面の面積の計算。黒板には白いシートのUPICが貼られ、ワイヤレスの方式なので接続ケーブルが見当たらない。児童に配布されたプリント問題と同じ立方体図が映し出されている。板書を併用しながら青木教諭は、子どもたち全員に配布プリント問題を解かせた後、手を挙げた子を指名して、電子黒板で計算式を発表させた。

指名された子は、電子黒板にデジタルペンですらすらと計算式を書き、間違ったところは消しゴム機能を使って素早く消した。ほかの子どもたちから「そこは色を変えたら」と声が飛ぶと、横に貼られた操作盤（コマンドシート）にペンでタッチして色をすぐに変えてみせた。操作盤は、鉛筆や消しゴムなどの図柄で表示されており一目で分かるようになっている。子どもは器用に使いこなし、全く抵抗感がない。

青木教諭は電子黒板について、「視覚的にも分かりやすく、準備の手間もあまりない。例えば、先ほどのようにプリントを映し出せばよく、立方体図を黒板に描く時間が要らないので、子どもたちの考える時間が増える。ICT教育の良いところは指導の効率化。子どもたちも発表しやすいため、プレゼンテーション能力が上がり、意見を言い合って考えを深め合うツールになっている。何より授業に関心を持たせる効果が高い」と話す。

この電子黒板は授業が終わっても、教室の黒板に貼ったまま。子どもたちに自由に使わせている。「高価だと子どもに自由に使わせるのはためらってしまうが、これなら気軽に使わせられる」と重永校長。

今後、使用中の教材をデジタル化するだけでなく、動画や3D画像も含めて多彩な教材を作っていきたいと考えている。さらにそれを校内無線LANで共有化していく。「教材を共有化していくことで、教員の資質の向上が図れるだけでなく、質の高い教育を提供できると思う」と青木教諭。

この電子黒板は、試験運用期間中から、既に子どもたちの人気を集めている。

六月には学校説明会で、電子黒板を使った公開授業を行う。UPICがシートタイプのため持ち運びもでき、林間学校などでも使えそうだ。「電子黒板には大きな期待を持っています」と重永校長は話している。

●この記事・写真等は全私学新聞の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

東京都市大学グループ
学校法人五島育英会